

参考

下水道事業に関する民間企業の結集への期待

わが国の下水道は、衛生問題、水環境問題の解決のため短期間で急速に整備が進められてきた。その結果、施設ストック量は膨大なものとなるとともに急速に老朽化が進行しており、改築更新需要が年々増加していくこととなる。その一方、地球温暖化の影響と言われる気候変動により局地的な大雨が頻発しており、これに対応するための施設ストック量は全く不十分な状況である。

これに対し、施設整備に係る我国の下水道事業予算はピーク時の3分の1程度にまで落ち込むとともにメンテナンスの主要な財源である下水道使用料収入も十分ではない。また、事業主体である地方公共団体の下水道担当職員数もピーク時の3分の2程度にまで減少しており、特に中小市町村では極めて脆弱な管理体制にある。このような状況の下、民間企業のより一層の活躍が期待されているが、下水道事業のイメージが必ずしも良くないことや少子高齢化の影響等があり、処遇の改善や社会的地位の向上により一層努めて若者に魅力のある業界にしていかなないと民間企業側についてもその担い手を確保することが難しくなると危惧される。

このように、今日の下水道を取り巻く「ヒト、モノ、カネ」の面での制約が時間の経過とともに深刻度を増しており、このままの状況では下水道事業の健全な継続は困難なものとなる恐れがある。

このような状況に対し、「新しい時代の下水道政策のあり方について【答申】」(平成27年2月社会資本整備審議会 都市計画・歴史的風土分科会都市計画部会 河川分科会)では、「迫り来る危機を直視」し、「下水道の潜在力を発揮」して「総力を結集して挑め」と檄を飛ばしている。今般、下水道界を構成する産学官の重要な一翼を担う民間企業の有志がその結集を図るために新しい行動を起こしたことは、誠に時宜を得たものである。

「It is not the strongest of the species that survives, nor the most intelligent that survives. It is the one that is most adaptable to change. (最も強い者が生き残るのではなく、最も賢い者が生き延びるのでもない。変化に最も対応したものが生き残るのである。)」は、「種の起源」を著わしたチャールズ・ダーウィンが言ったとされている言葉である。下水道事業の様々な課題・変化に対応するため、既存の枠組みに捉われず、民間企業の結集を図るための勇気ある一歩を踏み出した方々に心からの敬意を表わすとともに、今回の行動が多くの方の賛同を得ることにより下水道産業の経済的、社会的及び技術的向上が図られ、ひいては下水道事業全体の健全な発展維持につながることを大いに期待するものである。

令和元年12月2日

新法人設立応援者の会

新法人設立応援者の会(五十音順)

有 田 仁 志	前 北九州市上下水道局長
江 藤 隆	元 国土交通省都市・地域整備局下水道部長
大 村 達 夫	東北大学未来科学技術共同研究センターシニアリサーチフェロー
大 屋 弘 一	元 大阪府都市整備部下水道室長
岡 久 宏 史	元 国土交通省水管理・国土保全局下水道部長
河 井 竹 彦	元 地方共同法人日本下水道事業団技術開発部長
楠 田 哲 也	九州大学名誉教授
久 保 裕 志	元 公益財団法人愛知水と緑の公社常務理事兼下水道部長
酒 卷 和 彦	元 公益財団法人埼玉県下水道公社理事長
塩 路 勝 久	元 国土交通省水管理・国土保全局下水道部長
曾小川 久 貴	元 国土交通省都市・地域整備局下水道部長
野 村 宜 彦	前 横浜市環境創造局長
畑 田 正 憲	前 地方共同法人日本下水道事業団理事
花 木 啓 祐	東洋大学情報連携学部教授
福 井 聡	元 大阪市建設局長
松 井 三 郎	京都大学名誉教授
松 尾 友 矩	東京大学名誉教授
森 岡 泰 裕	前 国土交通省水管理・国土保全局下水道部長
山 田 雅 雄	元 名古屋市副市長
渡 辺 志津男	元 東京都下水道局長